

協働提案事業「投票支援の見える化プロジェクト」が採択されました

共同代表 山中 和彦

前号でお知らせしたとおり、小牧市の協働提案事業に応募して、10月16日付で市から採択の通知をいただきました。

協働の担当課は、小牧市選挙管理委員会事務局です。事業名は、「投票支援の見える化プロジェクト」としましたが、幅広く選挙のバリアフリーの推進について担当課と協働できればと考えています。

この決定にかかる審査は、市の職員で構成される「協働のまちづくり実務者会議」と、有識者で構成される「小牧市市民活動促進委員会」でなされたということで、それぞれコメントが付されています。長くなるので、後者の委員会のコメントのみ紹介します。

《小牧市市民活動促進委員会コメント》

- ・障害の内容は多岐にわたり、その支援への意見も多種多様なものとなることが予想される。提案団体にはその調整・ファシリテートを期待するが、対象・手法の設定などについて丁寧な対話を行い、社会福祉協議会や福祉部局とも意見交換を行いながら、事業を進めてください。
- ・実施方法等を詰めきれていない部分が多いため、よく協議して目的を達成できるように進めてください。
- ・時間のかかる取り組みだとは思いますが、提案団体と選挙管理委員会事務局のみの協働に留まらず、庁内他部署や、様々な市民団体、当事者の協力を得ながら、より多くの障がい者の投票行動を促すためがんばってください。

このコメントにあるとおり、担当課と私たち団体連絡会とのていねいな対話が必要であると同時に、多くの関係者、市民を巻き込んで幅広いみなさんとともに、共感を得られる取り組みとしていきたいと考えています。

そこで、まずは、多くのみなさんから投票支援の実情をお知らせいただきたいと思います。

ある障害者向けのグループホームを運営されている事業所の方が、Facebook に投稿されていました。そのグループホームには、住民票がA市にある利用者とB市にある利用者がそれぞれおられたので、それぞれの市投票所に利用者さんを連れて行ったところ、A市とB市では全く対応が違い、B市の対応には憤慨したという内容です。また、今回の会報でも、こまき視覚障がい者の会の会員さんから報告があります。

私たち小牧市の実情はどうか、他のまちではどうか、まずは、そのことを把握したいと考えています。

そこで、みなさんから、実情をお伺いするために、インターネット上に投稿フォームを用意しました。個人が特定されない形で取りまとめ、担当課との話し合いの場で活用させていただきたいと考えています。メール等でお知らせいただいてもかまいません。ぜひご協力をお願いします。

『選挙のバリアフリーを進めるにあたっての課題調査』にご協力ください。

<https://forms.office.com/r/cWKNURFkmQ>



こまき視覚障害者の会

犬山市内投票所にも「投票支援カード」

10月某日の犬山市公式ライン。この秋の衆院選の案内が添付されている。何気なく開いてみると、何やら見慣れぬ「投票支援カード」の七文字。

なにになに？ ～投票支援カードとは、犬山市内の投票所(期日前投票所含む)において、お手伝いが必要な方が、投票所の係員に手伝ってほしいことを口頭で伝えることが難しい場合や苦手な場合などにご使用いただくものです。このカードに記入して、投票所の係員に提示していただくと、投票所で説明していただくことなく、必要な支援をスムーズに受けることができます。～ とな。

支援の内容は、投票用紙の代筆、投票所内の誘導、候補者名の代読、その他の四項目。わかりやすい表現や、各漢字のふりがななど、一定の配慮もなされているようだ。

そこで調べてみた。愛知県内では名古屋市をはじめ、近隣の春日井市や江南市、稲沢市など、既に多くの自治体の投票所で、この投票支援カードやコミュニケーションボードの採用が進んでいるらしい。

障害の有無に関わらず、あらゆる場面で、コミュニケーションに不安を感じている者は一定数存在する。何かしら障害を抱えているとすれば、なおさらではないか。

こうした、ほんの些細な「ひとにやさしい」取り組みが、障害者の前向きな社会参加に、あるいは社会全体のバリアフリーへの理解に、つながっていくきっかけとなしてほしい。(二見)

◎イベントの案内

「見える人と見えない人のバブリーライフ」2025.2.8(土) 小牧市中央図書館イベントスペース

午前の部 10:30～12:00 暗闇カフェ、「見えないってどゆこと?カルタ」体験会

午後の部 13:00～15:00 見えない人の外出攻略ガイド(トークライブ) 歩行訓練士 坂部司氏

「鉄道落語」 登龍亭獅鉄氏

入場無料。見える人も見えない人も、どなたでも参加できます。

小牧市肢体不自由児者父母の会

秋が駆け足で過ぎてしまい、グッと寒くなりました。今年は会場の都合で、12月8日(日)、少し早いクリスマス会となりました。

感染症が拡がりつつあると報道にあったため、換気に十分注意しての開催です。本当は『ミニ学習会』として防災や成年後見制度などを学ぶ予定もしていましたが、時間が長くなる事へのリスクを考えての企画としました。

参加してくれた方からは「楽しかった」と言ってもらえて本当に良かったです。心配することなく皆で集まる事が出来るようになると良いねと言いながらの音楽会でした。(上田)



▲音楽が流れる中、車椅子に光るブレスレットを飾り、パレードのようにして楽しみました。(ふれあいセンター大会議室)

小牧市難聴・中途失聴者協会

今年の秋は長かったのか短かったのか？ひと昔前のような四季を感じなくなりました。

9月の例会は2か月ぶり。皆さん酷暑を元気に過ごされたようで、おしゃべりに花が咲きました。今回は「携帯ミニボード作り」。両面テープを使って、簡単できれいにあっという間に出来上がりました。これを使って、会員同士で筆談に慣れてほしい…が願いです。

10月は要約筆記サークルの活動「福祉展」で、来場者の筆談体験に協力しました。小学校の「福祉実践教室」で要約筆記体験をして下さった子どもさんや一般の方などに書いてもらい、「難聴者には筆談で」のPRの場です。今年度は1日だけの福祉展でしたが100名超えの方々と交流を楽しみました。普段の行動範囲が狭いので、福祉展のような機会に参加することは刺激をいただけます。

10月20日には、岩崎中学校に於いて開催された『市総合防災訓練』にブースをいただき「知ってください。耳マーク」のテーマで、チラシとティッシュを参加者に配布しました。

11月はゲームやおしゃべりの交流会。新たな難聴者が来室され、既会員とともに楽しいひと時を過ごしていただきました。(古木)



▲『市総合防災訓練』でのブースの様子。岩崎中学校区民・生徒・市・消防団・小牧警察署、陸上自衛隊などが参加して訓練が行われました。

小牧市おもちゃ図書館きらら



▲どれにしようかな。ぶかぶか浮かんだおもちゃをすくって楽しむ女の子。

9月29日(日)、デイサービスひかりで開催された『ふれあいまつり』に、おもちゃすくいと飲み物販売のブースで参加しました。15時から16時30分までの短い時間でしたが、あさひ学園に通う親御さんや地域の皆さんで賑わい、きららのブースにも150人ほどの子どもが参加しました。ここ数年はコロナの影響で、対面でのふれあいを控えながらまつりに参加してきたので、子どもたちの元気な声が聞こえるひと時を、私たちもいっしょに楽しみました。

11月には、きららニュースを発行。12月に開催するあそぼうDAYの告知や、ふれあいまつりの報告、また、おもちゃ図書館のおもちゃを借りた方から寄せられた感想や、絵本の紹介『おひざ文庫』を載せて配布をしました。

今後の予定として、12月のおもちゃであそぼうDAYは「きららのクリスマスコンサート」と題し、毎年お招きしているKAKERUさんによるピアノ演奏と、きららのメンバーでクリスマスにちなんだ紙芝居を読みます。

来年1月にはおもちゃの清掃、2月にはあそぼうDAYで「おみせやさんごっこ」を企画。楽しく遊んでもらえるよう、アイデアを練っているところです。(平手)

ここぱりこまき

11月17日(日)の「ここぱりこまきやさしいまち 防災・バリアフリーコンサート」に向けてチラシを作り、各団体や福祉展での配布に取り組み、当日を迎えました。

残念ながら同日に様々なイベントがあるということで、防災関係の方の参加も難しいということでしたが、たくさんの障害のある人たちを含め老若男女 70 名強の方が集い、ほっこり、ステキな時を皆で共有することができました。

シンガーソングライターの石田裕之さんは神戸の方で、阪神淡路大震災を経験されており、そのとき全国の方に支えてもらったので、自分もその恩返しをしたいと思い活動されてきたそうです。

13 年前のバリアフリーコンサートで小牧にお招きしたときは、東日本大震災の後でボランティアのお話など伺いましたが、石田さんは今でも毎月石巻市に行かれているそうです。そして今年起こった能登半島地震のお話でも、泥のかき出しや炊き出しなどをされている様子を伝えてくださいました。何度も行ってきた被災地でのコンサートの経験からか、参加者皆と作りあげる優しいおしゃべりと美しい歌声に、涙が出たり、笑顔になったり…。防災に関する大切なお話もされつつ、何よりも普段から地域や周りの人とつながっていこうというメッセージに、会場全体があたたかい気持ちに包まれたように感じました。

そして、ゆっくりでもいいから、巡り会った人たちとともに、日々地道にしていねいに続けていくことの大切さを改めて感じ、ここぱりこまきや仕事、その他の活動などをまたみんなと一緒に続けていこうと思えたコンサートになりました。(御手洗)



▲味岡市民センター講堂で行ったコンサート。石田さんの美しい歌声に聴き入りました。

【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000 円) ■団体賛助会員(年会費 1,000 円) ■個人賛助会員(年会費 1,000 円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援して下さる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50 音順): 正会員(5) 賛助会員(5)

【正会員】ここぱりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2024 年12月発行
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
【ホームページ】 http://komaki-sdr.sakura.ne.jp

※視覚障害のある方へ
ホームページに本通信の
テキスト版があります。



協働事業スタート！

共同代表 山中 和彦

2025(令和7)年度、いよいよ、私たち障害者団体連絡会と小牧市選挙管理委員会事務局との協働事業がはじまります。

テーマは「**投票支援の見える化プロジェクト**」。3年間の時間をもらって、選挙管理委員会事務局といっしょに、「投票支援をみんなに見えるようにしていくこと」を掲げた取り組みです。

投票支援に見えるようにするためには、まず、投票支援に見える形に具現化していかなければなりません。ひとつでも多く、投票支援を形にして、みなさんに使ってもらいたいと考えています。

まずは、投票支援の実情を把握すること、そして、障害のある人がどのような支援を望んでいるかを把握することを初年度は進めたいと考えています。

7月には、参議院選挙があります。この選挙を通じて、実情把握をしていきたいと考えていますので、ご協力をお願いいたします。具体的な方法については、おっとお知らせいたします。

3年間、しっかり取り組んで行きますので、御支援をお願いします。

最近、選挙が変だぞ

障害のある人のための選挙のバリアフリーの推進を目標のひとつに掲げている私たちは、もちろん、選挙に関心がありますし、選挙を大切なものと思っています。

ところが、最近の選挙、変じゃないですか。

2024年7月にあった東京都知事選挙では、ある政党が24人もの候補者を立て選挙ポスター

の枠を広告枠として売り出しました。候補者とは関係のない犬や猫の写真のポスターなども貼り出されたとのこと。当選するつもりはなくとも、売名としては効果があるのでしょうか。他の候補者ですが、表現の自由だといって、女性のほぼ全裸姿をポスターにしたり、一夫多妻制を主張したりもあったそうです。

同じく昨年9月には、兵庫県知事選挙がありました。パワハラの疑いなどで告発された問題で、県議会から不信任を議決され失職した知事が再選されました。この選挙では、SNSによる偽情報、誹謗中傷、そして、自身は当選を目指さないで前知事を応援するという「2馬力選挙」が展開されるなど、言葉に迷いますが、なにか、選挙そのものがゆがめられたように思い、残念な気持ちになりました。

これまでも、ヘイト発言や差別発言を政見放送で流そうとした人もいます。少数者が、暴力ではなく、言論によって共感を得ていくプロセスなので、選挙の場では、少数者の意見も尊重されなければいけないのですが、偽情報による情報操作などを含め、選挙ならば何を言ってもいいとなつては、選挙は、本来多様性を尊重し、一人ひとりの生き方、思いを尊重する民主主義を無防備にするものだと思います。

このようなわが国の選挙の様子やあちこちの大国の、選挙で選ばれた大統領の独裁的な振る舞いを見るにつけ、いま、私たち自身が、民主主義と選挙について、ていねいに考え、学ぶことが必要だと思っています。

こまき視覚障がい者の会

今年度は市民活動助成金ひろげる部門で作成した、視覚障がい者のための・ものタグ「アテナナビ」のさらなる充実と普及を目的とした事業を行ってまいりました。充実のためには毎月の広報の音訳版を掲載する他、白杖歩行の知識や小牧市の防災ガイドブックの音訳版を掲載し、防災知識もまとめて掲載しようと準備中です。また普及のためには奇数月に行っているiPhone講座の他、2月8日(土)に「見える人と見えない人のバブリーライフ」を、小牧市中央図書館イベントスペースで開催しました。



▲歩行訓練士らによるトークライブでは、引きこもりAさんの外出攻略ガイドと銘打って、歩行訓練についての説明のほか、外出や日常生活に役立つ情報を紹介

午前は「暗闇カフェ」と「見えないってどゆこと？カルタ」でいろんな年齢層、障がいの有無を超えたバリアフリーな体験会を開催しました。午後は引きこもり視覚障がい者Aさん×歩行訓練士 坂部司氏によるトークライブとしていましたが、実際は小牧市役所障がい福祉課、小牧市社会福祉協議会相談支援課のご協力をいただき総力戦となりました。その様子は下記のURLまたはQRコードから動画をご覧ください。午後の部の後半は、登龍亭獅鉄さんによる「鉄道落語」を楽しみました。引きこもりがちな視覚障がい者が、前向きな気持ちになり福祉サービスなどを利用して外出したいと思っていただけたらと願っています。(水谷)

「見える人と見えない人のバブリーライフ」

https://youtu.be/JuuHX_LnOc?si=Nap6_mxl64oWnl1L



小牧市肢体不自由児者父母の会



▲3月1日(土)、愛知健康の森プラザで開催された理事研修会

理事研修会で、石川県の現状について報告と体験談を聞かせていただきました。

1年経ちましたが、障害のある方の避難所での生活の大変さは想像以上でした。まだ、住宅が定まらない、みなし仮設住宅なども障害者には利用が難しく、いまだに家族分断になっていらっしゃる方もいるとのことのお話に胸が鬱ぎました。この地方でも他人事ではないと、あらためて備えと心構えが必要だと痛感しました。

個別の避難計画も実情に則して考えておく必要があると思います。実際、どうなるかなど、なってみなければわかりませんが、自由に動ける方でも大変な場面です。車イスは？薬は？とどれ一つとってもかなりの困難さをはらんでいると思います。

今回の研修会では、地域で知ってもらえることで、『もしもの時』に避難生活が過ごしやすくなるのお話があり、地域の防災訓練への参加を勧められました。私も出来る範囲で参加をしたいと思いました。(上田)



▲書を手にする被災者の方

小牧市難聴・中途失聴者協会

今年度最後の活動報告になりました。今年度は口コミでお誘いした方の入会や12月の「耳の不自由な方の交流会」も新しい方を迎え、会員数は22名になりました。地道に頑張ったのと会員の協力のお蔭で、ありがたいことと思います。

12月は「耳の不自由な方の交流会」。広報の案内を見て参加された方は「聞こえなくて人間関係に落ち込んでいたが、参加して胸のつかえがとれた」とおっしゃっていました。この方の「心のオアシス」になれたことを嬉しく思いました。

1月は、ふれあいセンターの会場が確保できず、2月1日に臨時の集会「お食事会」をしました。参加者が「今年の抱負」を話し、後は食事をしながら、個々のおしゃべりを楽しみました。

2月の例会は「アレンジフラワーを作る」。会員の中に生け花の先生がみえるので講師をお願いし、素敵なアレンジフラワーができました。19名の参加者だったので同じ花材でもそれぞれに個性がでて「春」のお持ち帰りをさせていただきました。3月は「次年度の話し合い」。どんな企画が飛び出すか？楽しみです。(古木)



▲講師(中央)の指導を受ける会員。要約筆者(右)も講師の説明をリアルタイムに文字化する



小牧市おもちゃ図書館きらら



▲KAKERUさんのピアノ演奏に合わせて、ふわりと上下する風呂敷バルーンで楽しむ参加者

12月15日(日)に、今年度3回目のあそぼう DAY「クリスマスコンサート」を開催しました。4家族が参加し、リクエストにも即興で応えてくださる KAKERU さんの素晴らしいピアノ演奏や、ボランティアによる紙芝居で、楽しいひと時を過ごしました。

1月11日(土)はおもちゃの清掃を行い、壊れていないか、不備がないかなどを点検しながらアルコール消毒をして棚を整理しました。

2月16日(日)の4回目のあそぼう DAYは「お店屋さんごっこ」。趣向を凝らした工作のハンバーグ屋さん、アイスクリーム屋さん、ラーメン屋さん、折り紙屋さん、そして本物のお菓子を並べたお菓子屋さんを用意し、子どもも大人も、店員さんになったりお客

さんになったりしてお買い物を楽しみました。

今年度を振り返ると、おもちゃ図書館の利用(おもちゃの貸し出しやプレイルームの利用)はコロナ禍前にほぼ戻りましたが、あそぼう DAY への参加は少ない傾向のままだす。それでも参加者からの「楽しかった」「また参加したい」との声に、あそぼう DAY が気がねなく安心して遊びに来られる場になっていると実感しています。来年度はよりたくさんの家族に遊びにきていただけるよう、周知の方法を検討していきたいと考えています。(平手)

こぼりこまき

11月にバリアフリーコンサートを行った後、こぼりとしての活動はありません。防災の研修は来年度に行おうと確認して、メンバーそれぞれは仕事や他の活動、また家族の問題(子どものこと、ご両親のことなど)に取り組んでいる日々です。

2025年は団塊の世代全員が75歳以上となり、国民の5人に1人が後期高齢者となる年です。少子高齢化の中で、予算の使い方を高齢者が使い過ぎとか、子どもに手厚くとか色々と議論されますが、こぼりで活動してきたことをふりかえると、誰もが大切にされるように考えないといけないと思います。

私がまだ学生だった頃、障害の重い子どもたちが学校に通うことについて同じ障害の子をもつ親さんたちから反対の声がありました。重い子どもに手がかかり、我が子が置き去りにされる不安からだったと思います。けれどもある学校の中で、最も障害の重い子どもたちが大切にされる教育は、他の子どもたちも大切にされる教育と親たちも実感できる実践が行われ、教育や保育に広がっていきました。先日私の職場の仲間も同じようなことを言っていました。高齢者のデイサービスで、認知症ではない人が「自分が認知症になっても心配なくなった。このデイのスタッフさんのように対応してもらえたら安心」と言われたという話でした。

障害の重い人、認知症の人、そんな人たちが大切にされる世の中は、いろんな子どもたちや子育てに困っているママたちにもやさしい場、やさしいまちになると思います。年齢や障害の種別を超えて、同じ問題として考えていきたいですね。団体連絡会への期待も込めて…。

(御手洗)



【会員を募集しています】

小牧市のさまざまな障害者当事者団体、支援者団体がつながって、いろいろな障害のある人の立場を互いに知りあい、共同して市民に向けて発信していくことで、障害のある人も誰もが暮らしやすいまちづくりを進めていくことを目的に活動しています。活動に賛同していただける団体、個人の方を募集しています。

■正会員(団体のみ 年会費 2,000 円) ■団体賛助会員(年会費 1,000 円) ■個人賛助会員(年会費 1,000 円)

※賛助会員は、活動への参加は難しいけれど趣旨に賛同し、イベントへの参加や活動の周知等を通じて応援して下さる会員です。議決権はありませんが、イベント等のご案内を差し上げます。申込みは下記メールアドレスへご連絡ください。

■小牧市障害者団体連絡会加入団体(50 音順):正会員(5)賛助会員(5)

【正会員】こぼりこまき、小牧市おもちゃ図書館きらら、こまき視覚障がい者の会、小牧市肢体不自由児者父母の会、小牧市難聴・中途失聴者協会

【賛助会員】小牧市聴覚障害者福祉協会、小牧おひさまクラブ、手話サークルおてだま、手話サークルふたば、全国障害者問題研究会小牧サークルかざぐるま

小牧市障害者団体連絡会通信 2025年3月発行
〒485-0811 小牧市光ヶ丘1-1 アクシス光ヶ丘4-403(山中)
【メール】 mail@komaki-sdr.sakura.ne.jp
【ホームページ】 <http://komaki-sdr.sakura.ne.jp>

※視覚障害のある方へ
ホームページに本通信の
テキスト版があります。

